

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立大森東小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実験や観察を丁寧に行った結果、高学年では「水の蒸発について」や「顕微鏡の使い方」については、目標値を上回ったものもあった。

(2) 課題

- ・自然事象や実験への関心はあるものの、基本的な知識や理解に結び付いていない。
- ・理科で学習した用語や実験器具の名前、その使い方の理解につまずきが見られる。
- ・説明したり自分の考えを表現しようとしたりするという意欲に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）△目標値を上回っているポイント▼目標値を下回っているポイント

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	知識・技能 ▼ 思考・判断・表現▼ 主体的に学習に取り組む態度▼	/	/
第5学年	知識・技能 ▼ 思考・判断・表現▼ 主体的に学習に取り組む態度▼	(第4学年時) 知識・技能 ▼ 思考・判断・表現▼ 主体的に学習に取り組む態度▼	/
第6学年	知識・技能 ▼ 思考・判断・表現▼ 主体的に学習に取り組む態度▼	(第5学年時) 知識・技能 ▼ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度▼	(第4学年時) 知識・技能 ▼ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼすべての内容で、目標値を下回っていた。 ・全国正答率と10ポイント以上差がある項目は、「昆虫のあしが胸の部分についていること」「種類の異なるものは、同じ体積でも重さが違うことがあること」「風の強さが強いほど、風が物をうごかすはたらきは大きくなること」の理解についてであった。基本 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼすべての内容で、目標値を下回っていた。 ・光の性質、物の重さ、風やゴムのはたらきの内容での誤答が多い。記述で答える設問に対して、無解答や誤答が多かった。後半に出題されている内容に無解答の児童も多く見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼすべての内容で、目標値を下回っていた。 ・問題を読み取る力や集中力に課題が多い。問題の意図自体が理解できず無解答が目立つ。特に、記述問題でその傾向が強く見られる。

的な事項が身に付いていない。		
----------------	--	--

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 目標値から大きく離れている内容は、「実はおしべの一部が変化したものであることを理解している」、「方位磁針の使い方を身に付けている」であった。また、誤答が多かった内容は、「ふりこの周期の測定方法を理解している」「水のすがたを理解している」であった。基本的な知識が身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値に近かったり、上回ったりしているものもあるが、全体的に目標値を下回っている。 日常事象における条件に着目して、知識を関係付けながら問題を解決することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値に近かったり、上回ったりしているものもあるが、全体的に目標値を下回っている。 記述式の問題に課題がある。特に、説明したり自分の考えを表現しようとする意欲に課題が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 教師が用語や実験結果を補いながら、知識を一般化させて定着させるため、まとめの時間を十分に設けるようにする。 用語や語句に関しては、毎時間確認して定着させる。また、他教科の学習でも、用語や語句に触れるよう教師が心がける。 学習したことを、テスト前などにタブレットの学習問題や教科書の適用問題などを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の予想は個人→グループの順で話し合う。予想を基にした実験をし、予想と結果を比べながら進める。 まとめの段階では、様々な日常現象を解決する活動に取り組み、知識の定着を図ると共に活用する力を身に付けさせる。 実験の内容によっては、ICTの学習教材や動画を活用して、実験の結果を発表させる。 考察等での記述が苦手な児童には、ポイントとなるキーワードを与えて、書きやすいよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の目的を児童に問いかける等、何を解決するために活動しているのか、問題に立ち返らせて意図を確認する指導を繰り返す。 考察等での記述の前には友達と考えを伝え合う時間を設け、自信をもたせる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを、テスト前などにタブレットの学習問題や教科書の適用問題 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことのレポート作成等をし、理科学的な事象を日常生活と結び付け、左記の 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことに自信がもてるように、反復して問題を解いたり、単元のまとめで

<p>などを実施し、インプットした知識をアウトプットさせて理解を深めていく。</p>	<p>ように知識の定着を図り、考察する時の観点を提示して考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 考察等の文章を書くのが苦手な児童には、ポイントとなるキーワードを与えて、書きやすいよう支援する。 	<p>学習したことを再確認したりしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ICTの学習教材を活用したり、動画で確認したりして意欲的に取り組むことができるように支援する。
--	---	---